



千代田区立神田一橋中学校



台東区立金亀小学校

2016 FEBRUARY 2月

みどり まな や

緑の学び舎

ニュースレター



世田谷区立用賀中学校



北区立王子第二小学校

Contents

■ 遊び場あり! 収穫あり! 児童・生徒が生き生きと学べる屋上・壁面緑化!

●千代田区立神田一橋中学校 ●世田谷区立用賀中学校 ●台東区立金亀小学校 ●北区立王子第二小学校

■ 隣の芝生化校訪問 (東三鷹学園 三鷹市立第一小学校)

■ 多摩市立南鶴牧小学校の「南鶴牧小学校グリーンネットワーク委員会」に感謝状が贈呈されました!

■ すごいぞ! 親方

隣の芝生化校訪問

このコーナーでは、芝生化校の取り組みや維持管理活動における工夫などを紹介していきます。

三鷹市内で初めて校庭を芝生化した第一小学校。地域と連携し創意工夫しながら、子供たちが伸び伸びと遊べる校庭芝生を育てています。



東三鷹学園 三鷹市立第一小学校

芝生化DATA

児童数 (平成27年5月1日現在)	630名
芝生化面積	1,031㎡
芝生化年度	平成20年度

一小グリーンサミット会議が力強くサポート

芝生化から3年ほど経過した平成23年、後に校庭芝生の親方になる岡田実校長は、PTA、町会、校庭利用団体など、地域の方に維持管理の協力を要請し「一小グリーンサミット会議」を立ち上げました。日常の維持管理や夏休みをはじめとする長期休業期間は、地域の方が活躍してくれるため、学校の負担は大幅に減りました。



芝生の“バンソウコウ”

芝生の養生中に立ち入り制限を設けると、子供たちの遊び場が減ってしまいます。これを解決するため第一小学校で編み出した方法が「芝生のバンソウコウ」でした。芝生に光透過性の高い農業用防虫シートを張ると、シートが踏圧による擦り切れを防ぎ、その上で活動しても芝生が良好に育ちます。「立入禁止」による子供たちのストレスがなくなり、一石二鳥のアイデアとなっています。



情報をみんなで共有

一小グリーンサミット会議では、維持管理活動やイベントの情報を地域にも伝えようと、メールリストや学校のホームページに「芝生だより」を掲載して情報の共有を図っています。

また、児童の保護者が作成した芝生を守るためのキャラクター「芝レンジャー」は、広報誌や校長室前の掲示板などに登場し、“芝生の上でやってはいけないこと”を啓発しています。



芝生を守るためのオリジナルキャラクター・芝レンジャー



イベントを通じて芝生のよさをアピール

毎年6月、1年生を対象に「しばふのべんきょうかい」を開いています。岡田校長と専門家が、芝生の上ではいけないことなどを丁寧に説明し、みんなで大切にしようねと伝えています。夏休みには、おやじの会である「ダディ・ベアの会」が「パパと！ママと！学校に泊まろう！」を開催しました。芝生の上で体を動かして遊び、校庭に張ったテントに泊まります。こうしたイベントを通じて、これからも芝生のよさをみんなで共有していくそうです。



「隣の芝生化校訪問」掲載希望校を募集します。担当まで御連絡ください。

児童・生徒が生き生きと学べる

遊び場あり! 屋上・壁面緑化! 収穫あり!

東京都の補助制度を活用して、屋上・壁面緑化を実施しました!

東京都では、都内の区市町村立小学校、中学校、特別支援学校で、屋上緑化及び壁面緑化をする際に必要な工事費用を補助しています。

今回は、この制度を活用した学校を御紹介いたします。

千代田区立 神田一橋中学校

屋上緑化DATA	
生徒数 (平成27年5月1日現在)	261名
屋上緑化面積	500㎡
屋上緑化年度	平成26年度

屋上緑化は 環境への関心を深め、癒しの場として効果的

エコスクールとして、屋上緑化をきっかけに、環境問題を身近に感じられる取組を実践。生徒もリラックスできる場です。



太田耕司 校長

神田一橋中学校は、環境・エネルギー教材として活用できる施設を備えた学校として国が実施する「エコスクールパイロット・モデル事業」実施校に認定されています。「本校は、エコ教育に力を入れています。屋上は、緑化されているだけでなく、発電量などが分かる太陽光パネルが敷かれています。生徒が、環境問題に対して、関心を持つようになりました。」と太田校長は、事業実施の効果をおっしゃいます。

また、屋上の芝生で、お弁当を食べる青空給食が実施されています。多くの生徒に好評で、「とても気持ちが良い」という声が上がっているそうです。太田校長は「青空給食は、環境保全の大切さを実感できるひとときになっています。屋上の芝生でリラックスできる時間は、情操教育の一環としても効果的。屋上緑化が生徒にとって、癒しの場になっていることは間違いありません。」と語ってくれました。



生徒が作成し、地域のお祭りに使用されていた牛のオブジェ。

屋上でリラックス



丸いデザインの方が、心が安まるのではないかと発想から、屋上の芝生は、曲線を描くように設置されています。

世田谷区立 用賀中学校

壁面緑化DATA	
生徒数 (平成27年5月1日現在)	433名
壁面緑化面積	99㎡
壁面緑化年度	平成27年度

壁面緑化は、「ようこそ」という気持ちと地域に愛される学校作りの象徴

学校で取り組む「エコライフ活動」の一環として緑化した壁面。正門を入ると初めに迎えてくれる、目にも優しいおもてなしです。



7月1日の様子

2か月後

9月5日の様子

正門を入ると、すぐ左手に壁面緑化が広がっています。ゴーヤ、キュウリ、アサガオ、ヘチマなどが植えられ、屋上まで達した植物と立派な実が、生徒、教職員及び地域の方を和ませています。

用賀中学校では、「世田谷エコライフ活動」を実施しています。これは、児童・生徒が、環境に配慮した行動を身近なところから自主的・主体的に実践し、家庭や地域に還元するというものです。その一環として、特別教室の壁面を緑化しました。壁面から少し距離を取ることで風の通り道をつくり、虫が発生しにくい工夫してあります。

草間副校長は「当校は『ようこそ用賀中学校へ』という歓迎の気持ちと、地域に愛される学校作りを大切にしようと、奉仕活動も盛んです。学校施設も地域の景観の一部と考え、これからも大切に育てていきます。何よりも緑は心が潤いますよね。」と立派なきゅうりを手に持ち話してくれました。



立派に育ったきゅうり

台東区立金竜小学校

屋上緑化DATA	
児童数 (平成27年5月1日現在)	397名
屋上緑化面積	324㎡
屋上緑化年度	平成24年度

農園という学校の特色を生かして進める屋上緑化

自然を大切にする教育の一環として屋上緑化を実施。何もなかった屋上に有効活用の道が開けました。

屋上農園の取組とともに

金竜小学校では、野菜や草花の栽培を通して収穫の達成感や自然への感謝の心を育んでいます。校庭の一角には「金竜農園」があり、数多くの野菜や草花を季節に応じて栽培しています。平成24年度に農園の一部を屋上に移すとともに、屋上緑化を行いました。自然が少ない都会の学校だけに、子供たちの貴重な遊び場となっています。

● 農園の様子 ●



屋上農園は、学年ごと六つに区切られ、春と秋に種の植付けが行われます。春は、さつまいも、しそ、パセリ、枝豆、ナス、ミニトマトなど。また、秋は、ほうれん草、ブロッコリー、キャベツ、チンゲンサイ、小松菜など、年間に栽培する作物は実に多彩。子供たちは、日々作物の成長を観察しワークシートに記録しています。



松田正昭 副校長



緑化された屋上は、学校の特色になります。

屋上をいろいろな用途に有効活用!

屋上の芝生は、異学年交流やプール授業前の準備運動、併設されている金竜幼稚園の園児の遊び場として使用されています。「ケガなく安全に活動できるというのが最大のメリットですね。校庭は合成樹脂系の舗装のため、屋上の芝生は、子供たちが伸び伸びと遊べる貴重な空間となっています。」と松田副校長。屋上の芝生には多くの虫がやってきて、子供たちには生物の観察の場にもなっているようです。

いざという時の避難場所として活用

屋上の芝生は災害を想定した避難場所として活用されています。屋上の倉庫には災害に備えた備蓄があり、いざという時、子供たちが屋上に集まれるよう防災訓練を行っています。将来的には地域の方も含めた取組を考えているそうです。屋上緑化したことによって、閉ざされていた屋上を有効活用しています。



北区立王子第二小学校

壁面緑化DATA	
児童数 (平成27年5月1日現在)	170名
壁面緑化面積	270㎡
壁面緑化年度	平成27年度

壁面緑化の大きな特徴は、植物の成長を毎日見て楽しめること!

日当たりのいい南東向きの校舎の壁面を利用して、子供たちの植えた苗がすくすく育ちました。自ら育てた植物が屋上まで成長する様子は、子供たちにとって貴重な体験となっています。

北区における壁面緑化の取組

北区では、子供たちが、植物の育っていく姿を見て、自然や環境問題について身近に感じられるようにとの考えから、学校における壁面緑化の導入を進めています。実際に植栽を行いながら環境教育を受けられることによって、子供たちの興味・関心が刺激されると評判もよく、壁面緑化を区内全小学校に導入することを目標にしています。

王子第二小学校は、今年度初めて壁面緑化を実施し、子供たちが苗の植付けから行いました。

やってみることで養う自然観察力

植付けした苗は、半白きゅうり、ヘチマ、ゴーヤ、小玉すいか。子供たちは、苗を一人2個ずつプランターに植えました。素手で穴掘りしたのは初めてという子供も多く、「土が気持ちいい」「楽しかった」と笑顔で教えてくれました。神宮副校長は「例えば、ヘチマやきゅうりの雌花と雄花の違い、違う花が同じ茎から出ていることなどを見つけてくれたらうれしい。自分で植付けると、いつも以上に興味を持って観察しますから。壁面緑化の意義はこういうところが大きいと思います。」とおっしゃっていました。



収穫物は、給食でいただきます!

7月以降、作物の生長に応じて収穫が行われました。30cm以上の大きな半白きゅうりやゴーヤ、ソフトボールほどの大きさに育った小玉すいかを子供たちが収穫します。収穫された半白きゅうりや小玉すいかは、それぞれ調理して給食に出されました。子供たちは、自分で育てたものはいつもよりおいしいと大喜び。また、ヘチマは、今期だけで300本以上も収穫でき、乾燥させたヘチマワシにして子供たちに配られる予定です。



収穫物が入った給食メニュー

多摩市立南鶴牧小学校の 「南鶴牧小学校グリーンネットワーク委員会」に 感謝状が贈呈されました！

平成27年11月7日

東京都教育の日における記念行事の一環として、学校活動支援団体等に対する感謝状贈呈式が行われました。

東京都教育委員会は、長期間にわたり継続して区市町村立学校における学校活動の支援及び地域における児童・生徒の育成活動を続けている団体及び個人に対して感謝状を贈呈しています。環境整備支援部門の代表として、児童、生徒、地域を中心に芝生の維持管理を行っている多摩市立南鶴牧小学校の「南鶴牧小学校グリーンネットワーク委員会(以下、「委員会」という。)」に壇上で感謝状が贈呈されました。

委員会の活動状況

委員会は、学校、保護者及び複数の地域団体で構成され、維持管理活動が行われています。『できる人が、できる範囲で。』が委員会のモットーのため、毎週土曜日、午前9時から1時間の維持管理作業は任意参加です。委員会において、維持管理作業の日程調整、作業のノウハウや管理記録の共有などを行っています。

委員長の吉瀬正夫さん

「芝生化から約7年、多くの方と継続して協力した結果、感謝状をいただくことができました。非常にありがたいと同時に誇りに思います。情報共有のため芝生や維持管理の状況をブログで発信しています。南鶴牧小学校のホームページにリンクがありますので、御覧いただけますと幸いです。」



吉田正行校長

「本校の校庭芝生は、『学校の校庭』というより『地域の庭』という感覚です。芝生化後は運動が苦手な子供たちも校庭に出るようになりましたし、子供たちのケガがとても少なくなりました。これからは協力しながら本校自慢の芝生を維持していきます。」



すごいぞ！ 親方



町田市立小山田小学校
富田逸夫 校長

● 認証年度
平成25年度

校庭芝生の親方(又は匠)にお話を伺う「すごいぞ!親方」。

今回は、平成25年度に親方に認証された、町田市立小山田小学校 富田逸夫校長をお訪ねしました。

『芝生化が子供に与える効果を実感』

町田市内芝生化校の先駆的存在

小山田小学校は平成22年9月に町田市初の校庭芝生化校となりました。自然豊かな周辺環境の中、校庭には綺麗に整備された芝生が広がっています。富田校長は、芝生化してから現在に至るまで維持管理の中心を担っています。

芝生化後は、雨が降った後でもすぐに使える、校庭におけるケガが大幅に減った、霜柱が立たなくなったことなどを実感しているとのこと。養生期間の確保に悩んだこともありましたが、水はけが良いため、年間に校庭が使用できる時間はあまり変わらないという結論に至ったそうです。

今では市内の学校に小山田小学校が芝生化したことによる効果が知れ渡り、他校から維持管理の方法などについて相談を受けることもあるとのこと。



刈草と落ち葉を混ぜて腐葉土にしています。

芝生化によって学校に変化が!

「子供たちが芝生の上で空を見ながら寝転がったり、じゃれ合ったりして遊ぶんですね。それがコミュニケーションを生むのでしょうか。以前より落ち着いた学校になりました。」と芝生化の意外な効果を教えてくださいました。

また、芝生化の効果を実感として感じられるようになるにつれ、地域から人が集まってくるようになりました。都立町田高校吹奏楽部による「芝生コンサート」は、毎年200名以上が訪れる恒例のイベントとして学校及び地域に定着しています。

「校庭芝生の親方」認証時に東京都教育委員会から贈呈されたレインウェアを着用し、「レインウェアの重みを感じながら、これからは子供たちのためにがんばります。」と話してくれました。



毎年恒例の芝生コンサート

東京都教育委員会 緑の学び舎づくり事業